

留萌の研究活動

研究副部長 小平町立小平小学校
校長 齊藤 友昭

1. はじめに

留萌小中学校長会の研究は、研究主題を「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小中学校教育の推進」として、平成24年度から4か年継続研究をスタートし、今年度が2年目となる。

各市町村の研究を基盤とし、南北ブロック体制の下半年に一度の管内研究協議会における提言と研究協議、更に全道小提言のためのプロジェクト委員会の組織化、全連小研究大会参加などを通じて、学校経営の在り方や教育現場の今後の進む方向性などを校長の果たすべき役割を視点に据えて意欲的に研鑽に励み、課題を究明している。



2. 研究計画

(1) 活動方針

研究主題「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小中学校教育の推進」、副主題「地域と歩み、夢と希望に挑戦する子どもを育む学校の在り方」に基づく研究活動の充実を図り、校長としての識見を高め、指導力の向上に努める。

(2) 研究推進の重点

- ① 本年度の研究協議会は、研究主題に基づく4か年計画の2年次目の研究を推進し、第61回留萌管内小中学校長会教育研究協議会において共通理解を深めるとともに、昨年度明らかになった課題解決に向けた具体的な論議の場となるように努める。
研究推進については、提言担当地区を中心にしながらも、南北ブロック共同研究体制を基盤として研修活動を充実させ、その成果を管内研へと積み上げていく。
- ② 今年度と平成26年度の全道小研提言と全日中・全道中提言に向けて提言プロジェクト委員会を充実し、研究推進に努める。
- ③ 研究集録「和心一統」第44号を発刊し、研究の成果と校長会の足跡を記録に残す。
- ④ 道小・道中研究部、各市町村研究部及び関係機関との連携の強化に努める。
- ⑤ 留萌管内研究団体連絡協議会の会長・事務局長として各種研究会の連絡調整に務める

3. 研究活動

(1) 4か年継続研究計画

研究主題・副主題は、平成24年度から始まり今年度は4か年継続研究の2年次目となる。研究分野は学校経営の中核をなす「教育課程」と「生徒指導」としている。

- 前半2年間は、学習指導要領本格実施を考慮し「教育課程」、後半2年間は「教育課程」と「生徒指導」とする。
- 校長の在り方として「校長の役割行動」を参考にしながら問題解決の方策や戦略的な方策の

具体化を目指す。

○研究提言は、南北ブロック・4グループ制による輪番とする。

(2) 第61回留萌管内小中学校長会教育研究協議会の開催

① 期日 平成25年8月6日(火)

② 会場 留萌市中央公民館

③ 研究主題及び視点

○研究主題

「生きる力」を育む教育課程の編成と指導の組織化

○研究の視点

・「確かな学力」を育む教育課程の編成と指導の組織化

・個性を尊重し、「豊かな心」「健やかな体」を育む教育課程の編成

④ 分科会概要

小学校分科会、中学校分科会に分かれ、提言者の提言を基に教育課程の課題解決や今後の取組について研究協議を行った。

○小学校分科会

・提言者 遠別町立遠別小学校長 大 水 隆 司

○中学校分科会

・提言者 留萌市立北光中学校長 木 下 裕 二

(3) 平成25年度 全道小渡島・北斗大会の提言

○第9分科会 「健全育成」

○研究発表 「児童の健全育成を図る学校経営において発揮すべき校長のリーダーシップ」

○提言者 留萌市立潮静小学校長 東 公 康

(4) プロジェクト委員会

平成26年度全道小研日高大会、平成26年度全日中研苦小牧大会の提言のためにプロジェクト委員会を組織して準備を進めている。

(5) 新任校長会への参加

管内校長会で実施した「新任校長研修会」には、研究部として、校長会の活動の中核をなす研修・研究活動の重要性について説明し、校長としてどのように学校経営に当たるかを新任校長と共に考えさせていただいた。

(6) 各種研究会への参加、還流

研究会参加報告は研究集録「和心一統」に掲載して還流を図っている。

○全道小教育研究大会渡島・北斗大会 小学校長12名参加

○全道中教育研究大会釧路・弟子屈大会 中学校長 6名参加

○全連小研究協議会三重大会 小学校長 4名参加

○全日中研究協議会福井大会 中学校長 3名参加

4. おわりに

今年度は、全道小研究協議会での提言、次年度も全道小研究協議会での提言。そして、小中学校長会としての全国中学校長研究協議会での提言が割り当てられている。ここ数年は、会員数の減少もあり、一人一人の会員への負担の増加がますます感じられるようになってきている。管内校長会の活動全体の見直しとともに、研究部活動の見直しも迫られている。

このような状況から、全会員が積極的に自分事として提言作成や研究会参加に課題をもって取り組んでいる。本校長会全体が研究部体制を取っていると言っても過言ではない。今後も少人数所帯という事実を負と見なさず、少数精鋭で機動力を最大限発揮できる組織であるという自覚のもと研究を進め管内教育の発展に寄与していきたいと考える。